

発 言 通 告 書

発言者氏名	井坂 直
発言の会議	令和2年 8月31日 本会議
発言の種類	質 疑、 <u>一般質問</u> 、緊急質問、討 論、その他
質疑等の方式	一 括、 <u>一問一答</u>
答弁を求める者	市 長

【件名及び発言の要旨】

1 生ごみ処理器キエーロの普及とごみ処理の在り方について

- (1) 猛暑が続く現在、新型コロナウイルス感染症の拡大が全国的に広がる中で、廃棄物処理業務における感染防止策と熱中症予防を両立させる必要性について、市長の御認識を伺う。
- (2) 生ごみ処理器キエーロを使うことで日頃のごみ出しが楽になり、地域の集積所の悪臭防止やカラス被害も少なくなる。集積スポット周辺の衛生面からも、ごみ出しの労力面からも、焼却場からの排ガスが及ぼす大気環境面からも、改善が図れるキエーロを、改めて積極的に普及を推進させることについて、市長のお考えを伺う。
- (3) 万が一、新型コロナウイルス感染症の影響で生ごみ焼却処理が一時的に停止または縮小せざるを得ない事態になったとしても、各家庭に生ごみ処理器があることにより、生ごみ排出量を低減する効果が期待できるのではないか。不測の事態については想定しづらい面もあるが、アフターコロナの社会を見据えた上でも一考の余地があると考えているが、市長のお考えを伺う。

2 原子力災害時における感染症対策と熱中症予防について

- (1) 感染症拡大防止が求められる中で、台風などの自然災害が発生した場合、換気やテント設置などによる3密を避ける取組が重要である。同時に、熱中症予防対策も進めなければならない。昨年の台風被害の際、停電により自宅のエアコンが使えなく、熱中症が心配される事態も起こった。今後、コミュニティセンターなどの避難所には扇風機、クーラーがない体育会館にはスポットクーラー等を常備する方針だが、災害時避難における熱中症予防策の重要性について、市長のお考えを伺う。
- (2) 内閣府が示した感染症流行下での原子力災害避難に関する考え方は、不十分な点があるのではないかと、市長のお考えを伺う。
- (3) そもそも感染症対策における3密を防ぐことと原子力災害の基本とされる密閉と遮断は矛盾することが明らかである。この問題点について、毎年行われている日米合同原子力防災訓練の場を通じて各関係機関と問題共有した上で解決策を講じていただきたいが、市長のお考えを伺う。

3 気候非常事態宣言について

- (1) 6月12日、環境省は気候危機宣言を公表した。「今後地球温暖化に伴って、豪雨災害や猛暑のリスクがさらに高まることが指摘されており、まさに我々は危機に直面をしていると考えている。」と環境大臣はコメントされているが、市長はいわゆる気候危機を迎えているという御認識をお持ちか。
- (2) 市として気候非常事態宣言を行うことを検討する時期ではないかと、市長のお考えを伺う。